



創刊号

2008(平成20)年
10月20日発行

発行所

京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会

題字:理事長 幸田昌三

「朋友」とは、同信のなから。
2008(平成20)年4月の仏教壮
年会連盟発足にあたり、仏社
会員が力を合わせ、ともに歩
みを進めていこうという願い
から名づけられました。

「仏教壮年会連盟発足に寄せて」

仏教壮年会連盟会長 不二川 公勝

二〇〇八(平成二十)年四月一日、
浄土真宗本願寺派仏教壮年会連盟発足
のこの日は、宗門の壮年活動における
新たな道標の起点として、記念すべき
日となりました。

振り返りますと、一九六二(昭和三十
七)年、親鸞聖人七〇〇回大遠忌を契
機として展開されました門信徒会運動
は、教団の将来構想を支える大きな柱
でありました。

とりわけ、壮年層の結集・組織化の
重要性については衆意の一致するところ
であり、一九六九(昭和四四)年度
からは、全国に六〇〇単位の仏教壮年
会の結成をめざし、門信徒自らの努力
による組織作りが始められました。

その後、活動の拡がりに伴って一九
七九(昭和五四)年に「仏教壮年の結集

に関する宗則」が發布されるに至り、
ここに初めて、各地の組織を結ぶ全国
仏教壮年会議が誕生したのであります。

以来、このたびの連盟化実現までさ
らに四半世紀余の歴史を重ねるなかで、
会員一人ひとりの尊い努力が身を結び、
今春、名実ともに自主・自営の組織と
しての連盟設立に至りましたことを考
えますと、誠に感無量の思いであります。
ときあたかも本年四月には、ご門主さ
まご制定の「浄土真宗の教章(私の歩
む道)」が發布されました。そのなか
に、宗門のあり方と目的をお示した
だくものとして、以下の文言が記され
ております。

この宗門は、親鸞聖人の教えを
仰ぎ、念仏申す人々の集う同朋教
団であり、人々に阿弥陀如来の智

慧と慈悲を伝える教団である。そ
れによって、自他ともに心豊か
に生きることのできる社会の実現
に貢献する。

教章のこの精神はそのまま「仏教壮
年会連盟綱領」につながるものであり
ます。

われわれ仏教壮年は、自らの
生き方を親鸞聖人のみ教えに
聞き、ともに念仏申す朋友
の輪を拡げ、心豊かに生きる
社会の実現をめざします。

ある書物を読んでおりましたら、
屋久杉が驚異的な樹齢を保つ理由
の一つに、花崗岩で栄養分の少な
い痩せた土壌での成長の遅さが挙
げられていました。年輪の幅が密
になり硬い木質になることで、樹
脂が通常の六倍も蓄積され樹を守
るというのです。

さまたまに困難な社会状況のな
かで、お念仏のみ教えを一筋の依
り処に歩み始めた仏教壮年の活動
が、ほぼ半世紀にわたる歴史を踏
まえて、今日の確かな土台を築き
あげられたことを考え合わせます
と、先人の方がたの並々ならぬご
苦勞に、心から敬意を表しますと



2008(平成20)年度 仏教壮年会連盟第1回評議員会(6月7日～8日)

ともに、今後の末長い活動の継続と発
展を大いに期待するものであります。
全国のご住職方におかれましても、
仏壮活動は寺院活性の大きな力である
との認識をもって、組織の拡大と活動
の充実にさらなるお力添えをいただき
ますようお願いいたします。ご挨拶と
させていただきます。

み教えが 心にとどいた活動を

仏教壮年会連盟理事長 幸田 昌三



信心すなはち一心なり

一心すなはち金剛心

金剛心は菩提心

この心すなはち他力なり

(高僧和讃『註釈版聖典』五八一頁)

去る六月七日(土)、本山宗務所会議室において、仏教壮年会連盟第一回評議員会が開催されました。不二川公勝仏教壮年会連盟会長、全国評議員、仏教壮年会活動活性化推進講師、全国連区代表専従員の皆さま方のご出席のなか、ご推挙をいただいて浄土真宗本願寺派仏教壮年会連盟初代理事長に就任させていただきました。緊張のな

か、私はいつしか頭の中で冒頭の高僧和讃を口ずさんでいました。

「私でいいのか」「私がさせていたく仕事は何なのか」を自らに問いながら、身の引き締まる思いでいっぱいでした。全国三十一教区の代表の皆さまからは、それぞれみ教えに育てられてきた信念と、実践に裏付けられた理念から、活発な意見が出され、まさに、連盟化のスタートを切るに大変心強い会議でありました。仏教壮年会連盟には大きな重点目標があります。それは、

◎基幹運動(門信徒会運動・同朋運動)の充実進展をはかること

◎宗門の諸実践活動に参画すること

親鸞聖人七百五十回大遠忌を拓めるためのさまざまな施策と実行

◎教化組織(門徒総代会・仏教婦人会・その他)との連携を強化すること

◎仏教壮年会連盟の組織拡大、自主・自立・自営の確立と拡充

◎研修会や各種行事を企画、開催し、仏壮としての伝道教化活動を推進すること

などです。これらは簡単に成し遂げられるものではありませんが、宗祖聖人のみ教えに導かれて、阿弥陀如来の本願に廻向された一人ひとりが、共に一念仏を喜びあう朋友の輪を拡げることによって、主体的に自覚自立すれば着実に実現せられるものと確信しております。心豊かに生きる社会の実現をめざして、三十一教区の仏

教壮年会連盟が、それぞれの地域性を活かしながら、新たな創意工夫をこらした活動をここから始めていこうではありませんか。

私は戦争遺児でした。父親の顔を知らずに育ってまいりましたが、幼少期から、正信念仏偈に親しんでおりました。長じて、人の世の難しい中を生き抜いていくとき、いつも、お名号と対話しながら宗祖のご苦勞を偲んでまいりました。いつかこの生涯を閉じるときは、阿弥陀さまにすべてをおまかせして、それまでの一日一日を生きる喜びにつつまれて、称名報恩の日暮しを送らせていただきたいと思っております。任期三年間を、全国評議員の皆さまと心をあわせて御同朋御同行の精神を貫いて、力いっぱい任務を全うしたいと考えております。

さらなるご指導ご鞭撻をお願いして、挨拶いたします。

合掌

仏教壮年会連盟 役員・委員名簿

正副理事長・理事		
役 職	教 区	名 前
委 員 長	岐 阜	幸 田 昌 三
副理事長	山 陰	杉 本 健 治
副理事長	熊 本	三 嶋 統 吾
理 事	北 海 道	牧 田 宏
理 事	東 京	山 中 長 一 郎
理 事	石 川	田 方 均
理 事	福 井	竹 内 秀 博
理 事	奈 良	中 村 嘉 伸
理 事	兵 庫	平 井 孝 彦
理 事	安 芸	小 西 正 明
理 事	宮 崎	松 山 誘 季

監 査 役		
監 査 役	新 潟	小 林 道 夫
監 査 役	滋 賀	北 川 佐 一

顧 問		
顧 問	奈 良	田 中 章 生
顧 問	北 海 道	中 野 秀 勝

組織拡充委員会		
役 職	教 区	名 前
委 員 長	宮 崎	松 山 誘 季
副委員長	兵 庫	平 井 孝 彦
委 員	長 野	和 田 勝
委 員	富 山	西 野 均
委 員	大 阪	中 西 収
委 員	四 州	齋 藤 巧
委 員	福 岡	入 江 一 孝

研修委員会		
役 職	教 区	名 前
委 員 長	安 芸	小 西 正 明
副委員長	北 海 道	牧 田 宏
委 員	国 府	小 堀 靖 之
委 員	高 岡	林 政 一
委 員	和 歌 山	細 谷 廣 延
委 員	大 分	有 永 俊 文

広報委員会		
役 職	教 区	名 前
委 員 長	東 京	山 中 長 一 郎
副委員長	石 川	田 方 均
委 員	東 北	三 浦 義 夫
委 員	滋 賀	北 川 佐 一
委 員	備 後	石 井 輝 美
委 員	北 豊	角 倉 吉 治
委 員	長 崎	小 峰 光 紀

教材委員会		
役 職	教 区	名 前
委 員 長	奈 良	中 村 嘉 伸
副委員長	福 井	竹 内 秀 博
委 員	新 潟	小 林 道 夫
委 員	東 海	酒 井 修
委 員	京 都	桐 村 信 昭
委 員	山 口	山 根 明 弘
委 員	鹿 児 島	有 村 義 昭

任期:2008(平成20)年4月1日～2011(平成23)年3月31日



副理事長
杉本 健治 (山陰)
仏教壮年会連盟は、

多くの期待とたくさん課題をもって、二〇〇八(平成二十)年四月一日、発足した。

この連盟発足までにご尽力いただいた諸々の皆さまに、まず感謝申し上げます。

現代は企業でも、いろいろな組織でも目的に沿った数値目標の課題があり、それに向って皆が努力しています。仏教壮年会連盟でも教区によっていろいろ異なりますが、先ずは底辺の拡大、すそ野を広げることが大切だと思います。それには、連続研修会ははじめ各種研修への参加やレクレーション、イベント等を機にお寺に集ってもらい、足を運んでもらうことが必要だと私は思います。そして「私と寺」でなく「私の寺」になり、自分自身の課題として取り組んでいけば、必ず道は開けてくると信じます。

幸田昌三理事長を支え、皆さん共々歩んでいきましょう。



副理事長
三島 統吾 (熊本)
主体的、自主的運

営組織としての、仏教壮年会連盟が「新たな始まり」として発足し、初の評議員会にて副理事長を仰せつかりました。連盟が名実共に自立した組織として活動するために、評議員の皆さまと共に真摯に取り組み、理事長を補佐していきたいと思っています。



組織拡充委員長
松山 誘季 (宮崎)

仏壮は、基幹運動の推進者であることを改めて確認し、綱領の指し示す方向が活動の原点にあることを忘れずやっつけていこうと思いますので、万端よろしくお願いいたします。

今年度より仏教壮年会も連盟となり、私たち組織拡充委員会も内容を充実させ、拡大強化を推し進めていかなければなりません。

仏壮の高齢化、若者のお寺離れの対策を今講じなければ、目標達成は難しいのではないのでしょうか。私たちが手をひいてお寺にお参りした子どもたち、日曜学校の行事を楽しみにしていた子どもたちが成長し、大人になり、またその子どもたちがお寺に来るようになる環境作りが必要ではないかと思っています。

法話を中心にイベントなども多く取り入れ、明るく楽しい、そして為になる寺にすることが私の願いであり、責任であると感じております。今、若者の凶悪な事件が社会をさわがせておりますが、これもまた私たちの子どもの世代として考えさせられる大きな出来事です。親としてどう対処していくべきか思い悩む時、ふと仏さまに



組織拡充副委員長
平井 孝彦 (兵庫)

手を合わせ救われる我身こそが原点ではないでしょうか。仏教壮年会として、私は目標達成の第一歩はお寺の繁盛、この一言につきると考えます。

補佐役、副委員長を引き受けます、兵庫教区の平井孝彦です。全国仏教壮年会連盟化にご尽力いただいた先輩の皆さまに、敬意と感謝を申し上げます。

組織の形態はでき上がったものの、中味については課題山積で、委員長が荷物を一背負うことのないよう、委員の一人ひとりが責任を分かち合える委員会活動を支えて行きたいと思っています。共に一念仏申す朋友の皆さまにご協力をお願い申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。



研修委員長
小西 正明 (安芸)

このたび理事という大役を任せていただいた門徒推進員の小西正明と申します。「安芸門徒」の「信心の心」をしつかりと継承し、伝承していくためにも、真宗門徒、朋友の皆さんと力をあわせて、一人ひとりが「聴聞」を通し、真の信心の念仏者になれるように努力をつみかさね、次代においてその中心となる宗教的情操豊かな青少年たち次の世代を育成することも、私たちの大切な責務と自覚し、仏壮活動のお世話を、楽しく、有意義に一つひとつのご縁を大切に、活動させていただけると感謝しつつ、よ



研修副委員長
牧田 宏 (北海道)

きご縁、よき出遭いを喜ばせていただきたいと思っています。

新たる始まりとして、六月七、八日に開催された連盟の第一回評議員会において、研修委員会を、小西委員長を補佐し、担当することになりました。

宗門のみならずあらゆる組織、団体にとつて、人材育成はその盛衰を分ける重要な役割をもっております。これから組織を拡大し、活性化し、一人ひとりが基幹運動の中核とならんとして、我が仏壮連盟においても、幹部養成を急がなければならないと思っています。

私も十数年前に、研修会に参加させていただきました。その時の記憶は、いまでも鮮明に残っています。大会議室における厳かな開会式に始まり、講師による、仏教壮年のめざすところは、いかにして実践していくかなどのお話にも感動しましたが、なによりも、参加者四十数人の話し合いや懇親会のおかげで、常日頃私たち一人ひとりが皆同じようなことを悩み、疑問に思っていたことに驚き、また、地域やお寺によつては考え方、やり方としてご苦労の仕方にも相当違いがあることがわかり、まさに目から鱗が落ちた思いがしたものでした。それが私の仏壮活動の出発点でした。研修を受けられた方は皆さん、教区でも大変活躍されております。一人でも多くの方に研修会に参加してこんな体験をしていただければと願っ

会連盟 事 長・副委員長) 拶

ております。

委員会は七名の評議員で構成されています。全国に渡っていますので何回も開催できませんが、効率よく、新しい発想をもって企画し、参加者が有意義に感じ、帰ったら朋友に「次回はぜひ参加しろよ」と言ってもらえるような研修会になるよう、努力して参りたいと思っています。皆さまのご助力をお願いいたします。



広報委員長
山中長一郎(東京)

「仏教壮年会連盟」が発足し、これまでの会報名も新たに「朋友」と名づけられて、いよいよ連盟化後第一号の機関紙『朋友』が発行されることになりました。

私たちは親鸞聖人七百五十回大遠忌にむけて全ての教区、全ての組で「仏教壮年会」(単位会)や「組連盟」の結成機運を盛り上げ、全国の仏教壮年会運動をもっともともと本来の活き活きとした教化団体組織として蘇生しながら、基幹運動を中心となつて推進してゆくことがこの連盟の責務であると考えています。

そのためにも、この連盟の活動や情報、全国隅々の門信徒・仏社員、その家族や住職方まで分かりやすく伝え、各教区からは、組や単位の活動や情報をどんどん取り上げて全国に発信してゆく、ということが重要で緊急の課題であると考えています。

その意味で私たち【広報委員会】の使命はまことに大きなものであり、改めて責任の重大さを痛感しているところ

仏教壮 理 (各種委員会委 揆

ろであります。

これまでは各教区の会員や寺・門信徒まで十分に伝えられなかった活動や情報も、このたびの「連盟化」を機に自主・自営の広報活動として原点から見直し、会報だけでなく、さまざまな方法で情報を受け止め発信していけるよう、工夫と努力を惜しまず取り組んで参りたいと思います。

そして、広報活動としての「目標と効果」を見失うことなく、仏社団員の連帯感が増します広がり、深まってゆくことを目指して参りたいと思います。どうぞよろしく願ひいたします。



広報副委員長
田方均(石川)

大丈夫だろうか、また悩みをひとつついただきましたが、懸命に頑張りますのでよろしく願ひいたします。思えば二十年以上も前のことになりました。昔は不惑の四十歳といいましたが、ふと仕事、家庭、自分自身のことを考えた時、このままでいいのだろうか、将来の不安が頭の中をよぎりました。ただそれだけの人生で終わって悔いはいののだろうか、焦燥感にとらわれ、つい刹那的、享乐的な一時凌ぎの世界

に逃避したいとも思ったことがありました。現実には日々の忙しさの中で時は過ぎゆき、深く悩むことがありませんでした。そしてあれから二十年、とりあえず定年まで、還暦まで、一生懸命に勤め、その後は悠悠自適に旅行、絵画etcの生活を思っていました。

最近、有難いなあと、今頃になって気付かされたことは、生まれた時から私に仏縁があったことです。

私の生れた処は、小さい集落に三カ寺(浄土真宗)あり、保育所はお寺、子どもの頃は日曜学校と、寺は暮らしの中で、あたりまえのこととして育ちました。そのことを今頃になって感謝しています。

私には時既に遅いのですが、自分の言葉や視線が無意識の中にどれほど人を傷つけ苦しめていたかを知らされ、そこに愚かとしかしいえない自分自身を知らされます。愚かなる身を恥ずかしく思い、少しでも愚を慎もうと意識し努力をしよう、そして努力しきれない自分に、凡夫だ愚者だと気づかせていただくことが救いであると。「自分の力で生きてきた」そうではないと森羅万象、いろいろな力をいただき生かされていることに気づかされ、「おかげさまで」と素直に感謝することのできる素晴らしさに出会えて良かったと思えることです。そして、正信偈をいただき、大無量寿経に説かれてある人生の実相を知らされ、迷いを自覚させていだいて、ここに自己中心的な愛憎を超えた怨親平等、自他平等の世界から、いのちの尊厳を求めて仏教壮年会活動を通じ、まず身の回りにおい

ていろいろな課題に取り組みたいと考えております。



教材委員長
中村嘉伸(奈良)

から本年四月一日より仏教壮年会連盟になり、今後今まで以上に仏社の自覚を深めて活動をしていかななくてはならないと思います。浄土真宗を開かれた親鸞聖人が、私たちに阿弥陀如来の大きな慈悲、ご本願のはたらきに感謝する中で生涯を生き抜くことをお示しく下さいましたことを味わいながら、教材委員長として活動をしていかななくてはならないと考えています。連盟会員のみならず共に、力をあわせて活動していきたく考えています。よろしく願ひいたします。



教材副委員長
竹内秀博(福井)

中村委員長を補佐し、精一杯頑張っていきたいと思いますので、皆さまのご支援、ご協力をよろしく願ひいたします。

仏教壮年会連盟の発足は、仏教壮年会のさらなる発展と、会員による自主・自営の活動を進めることを目的としています。この自主・自営とは、宗派の指導、助言などをいただきながら、自らの意志のもとに、自らの行動で活動することにほかなりません。

仏教壮年会連盟綱領を礎とし、一日も早く、このような活動ができるよう努力させていただきます。

法
話

語り合う仏壮を！

仏教壮年連盟活動推進講師

藤井 邦磨



人間は生涯にどれだけの人と出会うのでしょうか。その数は具体的に数えきれない程の人数でしょう。

私は時々、JR京都駅に行く機会があります。広い駅ビルの中やホームなどを一時間程歩きますと、多分数千人の人と出遇います。しかし、面識のある人と顔を合わせることが殆どありません。顔も名前も住所なども全く知らず、言葉を交わすことなく、そのまま別れてしまします。

『親鸞』の著書もある哲学者の三木清は、「孤独は山の中にあるのではなく、街の中にある。一人の中にあるのではなく大勢の中にある」と述べ、社会学者のデイヴィ

ッド・リースマンも「孤独な群集」と表現しています。

このような中で夫婦となったり、親子となることは余程深い縁があったにちがいありません。ところが、この一番身近な家族間の人間関係においても、昨今では会話が少なくなつたといわれます。

ある男性は、早朝から仕事に従事して帰宅は深夜。子どもは寝ていたり、別室で勉強中。妻に対しては「風呂」「メシ」「寝る」の三つの言葉だけで会話は足りると語っていました。仕事現役中の会員の皆さんは如何ですか？「私はちがう」と即座に否定できるならば結構ですが・・・。

職場での会話はどうしても仕事

中心の内容になります（時には上司の陰口になったり、後輩へのグチもあるようです）。また、地域社会においても挨拶さえ滞りがちになりつつあります。

人間は、しあわせを求めてお金、肩書、名声、知識などを得ようと、一生懸命に努力しています。そのこと自体は決して否定されるものではありません。しかし、そのことと自身が人生の目的になると問題であります。慌しく日を重ねながら、苦悩を抱えながらふと、このような人生で終つていいのか、と不安感に襲われたことはありませんか。

仏教壮年会での話し合いは、異世代、異業種などの人たちが、一人の人間としてお念仏の共通の土俵で話し合うのです。内容は出世に役立つものではありません。お金もうけの方法を教えてくださいませんか。

蓮如上人は「ものをいえ ものをいえ」といわれました。勝ち負け、損得、好き嫌いなどの執われ

をはなれて、同座した人たちが同じ立場で語り合うのです。認め合い、傾き合い、支えあう安らぎの場がお念仏の世界です。さらに蓮如上人は語り合うことによって他の人の心もよく理解でき、また自分に間違いがあれば正してもらえ、ありがたい場でもあるといわれています。唯円房はお念仏の教えの疑問や自身の往生についての不審を、親鸞聖人との対話を通じて解決されました。

一度限りの人生が忙しいだけで終つていいのだろうか、と、問いかけていくことが大切です。

一人でも多く、お念仏のみ教えに出遇つてほしい、お念仏とともに人生を歩んでほしい。お念仏に生かされるいのちのよろこびを、ともに語り合っていけるほんとうの友人（朋友）に出遇えたらなんとすばらしいことではないでしょうか。

仏教壮年会運動は、こんな願いをもつて展開していく運動です。

いのちの垣根をいじく

滋賀教区仏教壮年会連盟理事長

北川 佐一



地域に住んでおられるAさんはガンが再発し、医者に末期と宣告されました。Aさんは落胆し、もうダメかと思いました。途方にくれたAさんはありとあらゆる新興宗教からお払いや祈祷、お札をうけ「これで安心」と入院されました。Aさんの家には仏壇がありません。なぜ、お寺に参拝されないのでしょうか。住職の話を聞こうとしなかったのでしょうか。浄土真宗の教章にもあります。「現世祈祷などにたよることなく」。しかし、Aさんのこの行動が現代の我々門徒の多くの姿ではないでしょうか。本音と建て前をうまく使い分け、かしく生活している現代人。何かおかしいと思いつながら宗教意識が大きく変わることはないでしょう。

お寺を末代にわたって護持し、発展させようと思うなら、この命題にどのように対応するのか考えていかなければならないでしょう。「わかつちやいるけど、やめられない」的な状況がこのまま続く限り、また続ける限り、少なくとも浄土真宗はこんなもので終わるのかと思います。未来はないでしょう。

まじめに考える僧侶や門徒をひとりでも多く増やし、灯を消さないよう相続したいものです。

長崎教区仏教壮年会
連盟の現状と活動

長崎教区仏教壮年会連盟理事長

小峰 光紀



日本の西の果て長崎教区の場合百二十八カ寺あり、その中十組の組があり壮年会登録が二十六カ寺であります。休会状態もあり、実際活動しているのは数カ寺で、長崎の場合離島が多く交通の便も悪いという条件の中、最近では、『命をいただく』とか『仏壮として生きる』などのテーマでのご法話の聴聞等、年二、三回の研修会を実施していますが、集まりも限られていますので、今後教区の課題として、未結成の寺院への壮年会結成の呼び掛けが必要だと感じています(休会も含めて)。

なお、私の所属は諫早組ですが、組単位でも四、五回寺の持ち回りで勉強会を実施しています。またその中で私の寺の壮年会は、来年で四十周年を迎えます。会員は四十一名で幅広い年齢層ですが、毎月十一日夜に定例会を開いています。毎回勤行(正信念仏偈)の後、法話または連研ノートによる勉強会、祠堂報恩講、御正忌報恩講、御彼岸などのときは、前日に清掃や御華束盛などの手伝いと、また期間中に夜座を設け聴聞、また年一回親睦を兼ねた一泊研修旅行と、新年会を行っています。通常、仕事の関係で、日曜日等の行事には多くの参加を得ますが、平日の例会時の参加は五割程度となるときもあります。

まず自分のお寺から、若手が集まり、関心を持つようなことも考え、新規加入と増員を呼びかけることから始めたいと考えています。

ぶつきょうねんかいれんめい
仏教壮年会連盟
 こうりよう
綱領

われわれ仏教壮年は、
 自らの生き方を親鸞聖人のみ教えに聞き、
 ともにお念仏申す朋友の輪を拡げ、
 心豊かに生きる社会の実現をめざします。

活動予定

◎二〇〇八(平成二十)年度 仏教壮年会連盟「幹部養成研修会」
 日時 二〇〇九(平成二十一)年三月七日(土)～八日(日)
 会場 本願寺宗務総合庁舎
 テーマ 明日の宗門と仏社の役割
 目的 宗門の基幹運動をより強力に推進するため、仏教壮年会連盟の幹部としての意識の高揚と自覚を深め、仏教壮年会活動の推進者を養成することを目的とする。
 募集人数 六十四名(各教区仏壮会員二名)

※詳細につきましては、各教区教務所を通じて追ってご案内いたします。

書籍紹介

ほうゆう
『朋友』
 浄土真宗入門のてびき

浄土真宗本願寺派 仏教壮年会連盟 編

本願寺出版社 八四〇円(税込)



連盟化記念出版として刊行されました本書。正信偈の解説、釈尊伝、宗祖伝をはじめ、浄土真宗の作法や仏教讃歌に至るまで幅広い内容となっています。読み物として、また研修会等の教材としても、様々にご活用ください。

収録内容(目次) ※第二刷より

- 浄土真宗の教章(私の歩む道)
- 教書
- 基幹運動について
- 浄土真宗の生活信条
- 御文章
- 頌解文
- 食事のことは
- 日常勤行について
- 正信偈の解説
- 釈尊伝「お釈迦さまの生涯」
- 宗祖伝「親鸞聖人の生涯」
- 作法・荘厳
- 一作法・荘厳
- 基本的な作法
- 仏壇の安置と荘厳
- お給仕の心得
- 二法要・儀式
- 家庭での仏事
- お寺での法要・儀式
- 葬儀
- 仏教讃歌